

## 若い王

### 第一章 年老いた王の秘密

昔あるところに、年老いた王がいました。

王には、自分が死んだときに王になるべき息子がいませんでした。

彼の民衆はとても心配でした。

「誰が次の王様になるのでしょうか？」と民衆は尋ねました。

しかし、王は死ぬ前のある秘密を明かしました。

王の唯一の娘である王女には、一人の子供がいたのです。

王女は平民とひそかに結婚して、彼らには一人の息子がいました。

民衆の中には王女の夫が芸術家であると言う者もいれば、音楽家であると言う者もいました。

しかし、彼の身元は謎で、誰も彼らの秘密の息子については知りませんでした。

その赤ん坊が生まれてから一週間たったころ、母親が寝ている間に数人の男たちが赤ん坊を連れ去りました。

王女はすぐに死にました。

ある者は、王女は悲しみのために死んだのだと言いました。

またある者は、誰かがワインのコップの中に毒を入れて王女に盛ったのだと言いました。

男たちはその赤ん坊を、とても貧しい家族の元に託しました。

この貧しい家族は森に住んでいて、少年は羊飼いになりました。

少年は一日中ヤギの世話をしました。

年老いた王は、重要な決断を下しました。

「私が死んだら、その少年が新しい王にならなくてはいけない」と彼は言いました。

王は、自分の家来たちを森に送りました。

「少年を見つけて、ここに連れて来るのだ」

家来たちは少年を見つけ、宮殿に連れて来ました。

少年は到着したとき、とても幸せでした。

少年は自分の周りにある全ての美しいものに、たちまち恋しました。

少年は自分の古びた革のチュニックを脱いで、上質な新しい服を着ました。

それから、少年は城を探検し始めました。

少年は、宮殿にある全ての美しい彫像や絵画、宝石を感心して眺めながら、部屋から部屋へと走りました。

街の民衆は少年について話をしました。

「若い王様は彫像を愛でることに、彼の全ての時間を費やしている」と彼らは言いました。

「若い王様にとっては、美と芸術が最も重要なことなのだ」

実際、若い王は美しい物に非常に魅了されたので、それらをもっと欲しがりました。

若い王は象牙やひすいを買うために、商人たちをインドに遣わしました。

若い王は男たちをシルクのカーペットのためにペルシャへ、こはくを見つけるために北部へ遣わしました。

若い王は、エジプト王の魔法の墓の中にある緑色のトルコ石を探しに、家来たちを遣わしました。

若い王はこれら全てのことについて考えましたが、とりわけ自分の戴冠式のローブについて考えました。

若い王は16歳で、翌日は彼の戴冠式でした。

若い王は非常に幸せでした、というのも彼は金色の美しい戴冠式のローブやルビーの王冠、真珠の王笏（おうしゃく）を持っていたからです。

若い王は自分の戴冠式のローブを準備するために、男たちに休みなく働くことを命じました。

「僕の王冠のために一番大きなルビーを、僕の王笏（おうしゃく）のために一番美しい真珠を求めて世界中を探すのだ」と若い王は言いました。

若い王は自分の美しい寝室にいて、戴冠式のローブについて考えていました。

それは夜のことで、若い王は自分の周りを見回しました。

部屋は銀色や金色、美しい色で満ちていました。  
窓を通して、若い王はジャスミンの香りを嗅ぐことができ、ナイチンゲールが歌うのが聞こえ、  
月が輝くのが見えました。  
家来たちがやってきて、若い王の枕に花びらを置きました。  
若い王はとても幸せでした。  
明日は彼の戴冠式の日でした。  
若い王は自分のリュートで美しい音楽を演奏し、深夜に目を閉じて眠りにつきました。  
その夜、若い王は夢を見ました。